

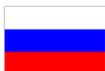


## 【韓国】 総合指数は週間で0.03%安と小反落、今週は米中対立に警戒か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.03%安と小反落。節目の2200ポイントを守ったものの、週後半は売り優勢の展開が続いた。週前半は米株高を支えに買われる場面もみられ、21日には終値ベースで今年2月17日以来、およそ5か月ぶりの高値圏まで上昇。ただ、その後は韓国経済の悪化や米中対立への警戒感が重しとなり、24日まで3日続落となった。なお、韓国銀行（中央銀行）が23日に発表した2020年4-6月期の実質国内総生産（GDP）は前期比で3.3%減少。アジア通貨危機に見舞われた1998年1-3月期以来の下落率となり、景気後退入り伝わった。今週は米中関係の動向を警戒しながらの展開となるか。国内の経済指標では7月29日に消費者信頼感指数、31日に鉱工業生産、8月1日に貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート



## 【ロシア】 RTS 指数は週間で3.3%高と反発、今週は原油相場に左右される展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.3%高と反発。ルーブル高や原油高、欧米株高が支援材料となり、週前半に大きく上昇した。週明け20日はドルに対するルーブル高や原油価格の上昇を受け、RTS 指数は前営業日比1.6%高。21日もコロナワクチン開発期待、欧州の景気刺激策、ルーブル高を追い風に指数は1.9%高と大幅に続伸した。その後は原油相場や欧米株価をにらんで週末まで上下にもみ合った。ロシア中銀は24日、政策金利を過去最低の4.25%に引き下げたが、市場予想の範囲内だったため材料視されず、指数は下落して週の取引を終了した。個別では、金相場の上昇を好感し、産金のポリメタル・インターナショナルが15.8%高、ポリユスが15.4%高と急伸した。今週も原油相場、ルーブル相場、欧米株価に左右される展開か。

▼指数チャート



## 【ベトナム】 ベトナム指数は4.9%安と3週ぶり反落、今週もコロナ拡大懸念が重し

か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で4.9%安と大幅に3週ぶりに反落。3か月ぶりに新型コロナウイルス感染者が確認されたことで週末に急落した。週明け20日は金融や不動産株が売られ、指数は前営業日比1.2%安。その後は一進一退だったが、24日は国内で3か月ぶりに新型コロナウイルス感染者が確認され、50人の濃厚接触者が隔離されたことで、指数が大幅安となった。ただ、場中に前日比4.7%安まで下落したものの、大型株に押し目買いが入り、3.2%安と下落幅を縮めて取引を終えている。週間では金融のベトナム投資開発銀行が8.2%安、ベトインバンクが7.7%安、鉄鋼のホア・ファット・グループが6.0%安、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が5.7%安だった。今週は国内でのコロナ感染拡大懸念が引き続き重しとなるか。

▼指数チャート





## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1% 高、ドル高ルピア安の一服で買い戻し**

ジャカルタ総合指数は週間で0.1%高と小幅ながら4週続伸。週末の下落が上昇幅を縮めた。週初の20日は、中央銀行が4-6月期の経済成長率について、前年同期比でマイナス4.0-4.8%に落ち込むとの見通しを示した影響で指数は続落。一方、21日は前週から続いていた米ドル高ルピア安が一服した効果で買い戻され、前日比1.3%高と反発した。ただ、その後も一進一退の不安定な値動きが続くと、24日は財務相が今年のGDPがほぼゼロ成長になると発言したことで売られ、前日比1.2%安と反落している。今週も国内の経済イベントが少なく、外部要因が指数を左右しそうだ。31日は巡礼の日のため休場。

### ▼指数チャート

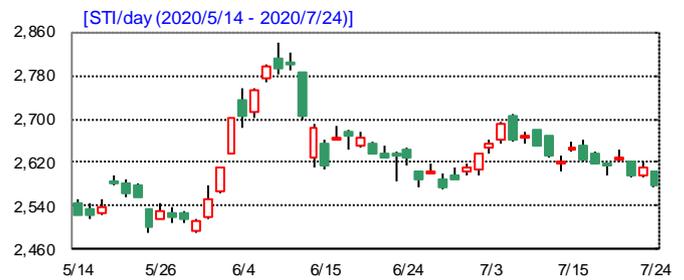


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.5%安、国内銀行が4-6月期決算で配当金を減額か**

ストレーツタイムズ指数は週間で1.5%安と3週続落。一進一退の不安定な値動きだった。週初の20日は前週末から横ばいだったが、21日は主要国で進む新型コロナウイルスワクチンの開発に対する期待感から買われ、4営業日ぶりに反発。一方、22日は前日の取引終了後にDBSグループ・リサーチが、国内の銀行が早ければ4-6月期決算で配当金を減額する可能性を示唆した影響で金融株が売られ、指数は前日比1.3%安と反落した。週後半は23日に反発したものの、24日は6月の鉱工業生産が2カ月連続で前年の水準を下回った影響で反落している。今週は31日がハリラヤハジ（聖地巡礼祭）のため休場。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%安、政局の先行き不透明感を嫌気**

SET 指数は週間で1.4%安と反落。混乱する政局の先行き不透明感が投資家心理を冷やした。週初の20日は、前週の4閣僚辞任に続き、労働相と首相府相が辞任を発表した影響で指数は小幅に反落。一方、21日は欧州連合（EU）首脳会議が復興基金の創設に合意した効果で買われ、前日比1.4%高と反発した。ただ、勢いは続かず、22日は6月の貿易黒字額が市場予想を下回り、指数は前日比1.4%安と反落。24日は米中関係の悪化が嫌気されて下落した。今週は29日に6月の鉱工業生産が発表される予定。27日は延期されていたソンクラーン（旧正月）の振替休日、28日はラーマ10世記念日のため休場となる。

### ▼指数チャート



## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%安、今週は28日に6月の貿易統計発表**

クアラルンプール総合指数は週間で0.4%安と4週ぶりに反落。週末の反落が痛手だった。週初の20日は、銀行株と通信株が指数下落を主導し反落。その後も一進一退の値動きが続く中、23日はゴム手袋メーカーのトップ・グローブとハルタレガが買われ、指数は終値で前日比1.2%高と反発した。ただ、24日は今週に入り米中両国が相互に総領事館の閉鎖を要求し、緊張が高まっていることが嫌気され、反落して引けている。今週は28日に6月の貿易統計が発表される予定。外部要因では米FOMCや4-6月期の米GDP速報値、7月の中国の公式製造業PMIが焦点になりそうだ。31日はハリラヤハジのため休場。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。